平成三十年度　新宿区生涯学習フェスティバル

邦楽のつどい

～一絃琴・尺八楽・地唄・義太夫・琵琶楽・箏曲・雅楽～

■日　時　平成三十年十一月十一日(日)
十二時　開場
第一部「鳴らしてみよう日本の楽器」　十二時～十三時
第二部　演奏　十三時十五分～十六時(予定)

■会　場　新宿文化センター　小ホール
(東京メトロ副都心線・都営大江戸線
東新宿駅下車　A3出口　徒歩五分)

■主　催　公益財団法人　新宿未来創造財団

■共　催　新宿区

■協力団体　新宿区邦楽三曲連盟

■第一部「鳴らしてみよう日本の楽器」(十二時～十三時)
文化センター　小ホールのホワイエで初心者歓迎の和楽器体験を開催します。
小学生から年配の方まで、どなたでも自由に体験いただけます。

入場無料・どなたでもお気軽にご来場ください

新宿文化センターアクセスマップ

問合せ:新宿文化センター
新宿区生涯学習フェスティバル担当
Tel 03-3350-1141

第二部　演奏曲目

一、一絃琴　虫音・鴛鴦（むしのね・をし）

一絃琴　酒井　紅翠　西尾　紅希　濱田　紅翔　岡田　直子

■虫の音がさびしさを感じさせる秋から、凍るような冬の夜へと季節の移ろいをあらわす二曲。

二、尺八楽　秋田菅垣（あきたすがかき）　琴古流本曲

尺　八　吉田　晶童　桑原　正童　河村　嵯童　杉本　真童
斎藤　治童　武井　朝童　米屋　鈴童

■琴古流は、江戸を中心として広まった尺八の一派。この曲は、「三谷菅垣」と共に広く愛好されています。

三、地唄（じうた）　玉川（たまがわ）　国山勾当　作曲　穂積頼母　作詞

尺　八　大串　翻山　田阪　梢山
三　絃　瀬端　淑子

■歌枕で知られる玉川を詠んだ和歌六首を四季に配してうたっています。

四、地唄（じうた）　八千代獅子（やちよじし）

箏高音　水飼　希秋　箏低音　中地　麻紀
三　絃　中小路　奈都子　長塚　梨秋
胡　弓　小髙　麗秋

■原曲は尺八曲とされる曲で、胡弓、三絃によって地唄に移されたものと考えられています。

五、義太夫　由良湊千軒長者（ゆらのみなとせんげんちょうじゃ）　山別れの段（やまわかれのだん）

浄瑠璃　竹本　寿々女
三味線　鶴澤　津賀花

■山椒太夫の伝説を題材とする曲で、人買い商人から丹後・由良湊の三荘太夫に売り渡された安寿姫とつし王丸の姉弟が、互いの境遇を嘆き、励ましあう場面を描いています。

六、琵琶楽　別れの盃（わかれのさかずき）　高松春月　作詞　橘旭宗　作譜

筑前琵琶　鶴山　旭翔

■赤穂浪士の討ち入り前夜、赤垣源蔵は兄を訪れるが、不在と聞き、兄の羽織の前で盃を交わし別れを告げる…

七、尺八楽　普大寺（ふだいじ）　虚空（こくう）　尺八古典本曲

尺　八　片岡　曄子　白土　良子　佐々木　尚絵

■中世に端を発する尺八音楽は江戸期を通じて虚無僧を主たる担い手として、瞑想的な音楽世界を生み出し、武士・僧侶が中心的な支持層でした。

八、箏曲（そうきょく）　嵯峨の秋（さがのあき）　菊末勾当　作曲

箏低音　金澤　法花能　福本　法明希能
箏高音　市川　法慧能　深堀　智子　横井　敦子

■高低二部合奏の明治新曲。平家物語の小督の巻によって、小督が「想夫恋」の曲を奏するくだりを描いています。

九、雅楽（がく）　平調音取（ひょうじょうねとり）・越殿楽（えてんらく）・五常楽急（ごじょうらくきゅう）・太食調音取（たいしきちょうねとり）　抜頭（ばとう）

出演者　武蔵野雅楽教室有志

■「音取」は一種の音あわせ。「越殿楽」は黒田節の原曲ともいわれる。「五常楽」は太宗の作といわれます。

※演奏曲目・演奏順等は変更になることがあります。